

県産材の需要と供給を一体的に創造しよう!!

謹 賀 新 年



■表紙写真 題名：富士山の見える集材所 撮影場所：富士市大淵 撮影者：牧野 士郎氏（裾野市）

INDEX

本誌はホームページでも掲載しております。是非ご覧ください。URL：<http://www.moritohito.jp>

2 謹賀新年
公益社団法人 静岡県山林協会 会長 鈴木 康友
静岡県知事 川勝 平太

3 支部だより①
「花と海といで湯の街 伊東」

4 支部だより②
富士森林組合の現状と展望

5 支部だより③
市制10周年～絆と元気が創る 幸せあふれみんなが集う NEXTまきのはら～

6 県庁だより①
「ニホンジカによる森林被害対策の推進」

7 県庁だより②
自立した林業に向けてビジネス林業を促進

8 本部情報

8 事務局だより

謹賀新年



公益社団法人 静岡県山林協会
会長 鈴木 康友

新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

会員はじめ関係者のみなさまにおかれましては、健やかに新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

また、日頃より、当山林協会の各種事業の推進並びに運営につきまして、多大なるご協力とご支援をいただいておりますこと、厚くお礼申し上げます。

さて、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックは、県産材の需要拡大に向けた大きなチャンスです。

オリンピックの開催には環境配慮が求められており、国際的に認証された木材の使用が必要です。事実、これまで開催された2010年バンクーバー大会、2012年ロンドン大会では、選手村や競輪場等で多くの認証材が使用されました。

昨年11月、この対応として、国際的森林認証の取得に向けた「静岡県森林認証推進協議会」が発足し、県内の関連団体が認証取得を推進する方針を確認しました。また、12月には、県主催のシンポジウムが開催され、県知事も力強く県内における森林認証の取得推進を掲げられました。

今後、既に認証を取得している団体等とも連携し、関係者が一丸となって県産材の需要拡大を図る必要があります。

静岡県は、豊かな森林を背景に伝統的に林業の盛んな地域です。今後につきましても、多方面で木材需要を喚起し、林業及び木材産業を発展させることで、地域経済の活性化に取り組んでまいります。

当協会は、県民の利益増進のため「森林の保全」、「山村及び林業の振興」、「森林整備の担い手の育成」に関する事業の充実に取り組んでおります。本年も会員皆さま方の変わらぬご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願いたします。

結びにあたり、会員みなさまの益々のご健勝とご活躍とを祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成28年 元旦



静岡県知事
川勝 平太

“ふじのくに” 森林・林業の新たな展開に向けて

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、すがすがしく新春を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。

本県は、世界水準の「場の力」に恵まれた地域であり、昨年7月、韮山反射炉が富士山に次いで世界文化遺産に登録されるなど、世界クラスを目指す魅力づくりが国際的評価を得る形で実を結んでいます。

県土の3分の2を占める森林につきましても、富士山の裾野に広がるヒノキ人工林や、南アルプス・エコパークを構成する天然林、質の高いスギ人工林が広がる天竜美林、伊豆地域の広葉樹林など、世界に誇る豊かで多彩な森林を有しております。

この森林資源を活用し、森林・林業の再生を図るため、平成24年度から「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト」に取り組み、昨年度までに、県産材の生産から利用までの一連の仕組みづくりが完了し、成果を上げています。

今後は、環境と経済を両立させた世界水準の森林管理に向け、国際的な森林認証の取得を一層推進し、森林・林業の再生を加速してまいります。

また、森林づくり県民税を財源とした「森の力再生事業」は、県民の皆様の御協力により、目標である1万2,300haの荒廃森林の整備が完了する見込みです。本事業は、この3月に現計画を終了しますが、新年度も引き続き荒廃森林の着実な再生に取り組み、県民の皆様の安心・安全を実現してまいります。

今後も、森林を守り、育て、活かす、「森林との共生」に取り組むことで、世界に誇れる「森林の都 しずおか」を目指してまいりますので、貴協会をはじめ、関係の皆様におかれましては、本年も積極的な御支援と御協力を頂きますようお願い申し上げます。

結びに、今年一年の皆様の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。年頭の御挨拶といたします。

平成28年 元旦

支部だより①

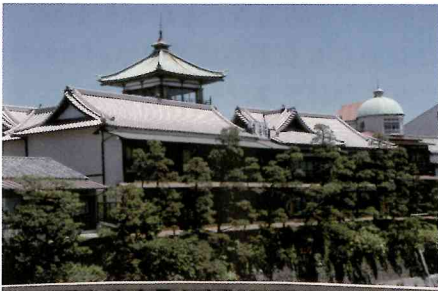
「花と海といで湯の街 伊東」

伊東市役所 産業課農林水産係

伊東市からは、恵まれた自然環境に囲まれた温泉都市の名所や由緒ある木造建築などの紹介をいただきました。

伊東温泉のあらまし

常春の伊豆・東海岸、東京より南西へ120km。東に伊豆最大の漁港伊東港をひかえ、朝夕新鮮な魚が水揚げされ、また、山の幸はミカン、ワサビ、しいたけなど、四季、海、山の味覚があふれています。伊東市の温泉は明治末期からの手掘りから機械掘りに発達し、源泉の数は急激に増え、現在では温泉湧出口は725口を数え、毎分約31,520ℓ(25～68℃)にもほり豊かな湯量は温泉県と言われる静岡県では一番を誇っています。



▲東海館外観



▲東海館玄関

観光・文化施設 東海館

東海館は昭和3年に木造三階建て温泉旅館として創業されました。昭和13年の伊東線開通により、湯治客から団体客への客層の変化に合わせて館内を増築していきました。当時、評判の棟梁が各階を分担し、望楼は

昭和24年に増築されました。そして、平成9年、東海館としての歴史に幕を閉じ、平成13年に伊東温泉の新たな名所として生まれ変わりました。当時の職人たちが腕をふるった建物は、ヒノキやスギなどの高級な木材や変木とよばれる形のかわった木々をふんだんに用いた美しい和風建築です。廊下や階段、客間の入口など管内随所に職人たちの手工を凝らした建築美が生きています。

さくらの里

さくらの里は、伊東市内から南へ15kmの大室山の山すそに40,000㎡におよんで広がっています。昭和52年度から昭和54年度にかけて整備、園内には約40種3,000本の桜が植栽されています。

9月下旬には十月桜が咲き始め、寒桜、大寒桜、染井吉野、一葉、松月、さらに5月に花開く兼六園菊桜へと8か月にわたり、たえまなく桜を楽しむことができます。



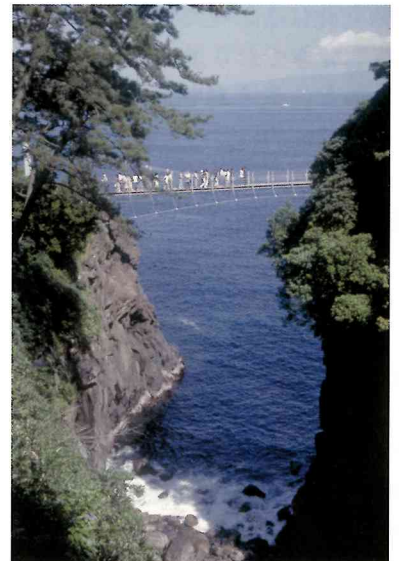
▲サクラの里(満開のソメイヨシノと大室山)

このほか、春には菜の花が黄色いじゅうたんのようには咲き広がり、夏の初めにはヘメロカリスが黄色やオレンジ色の花を開き、7月から秋に

かけては色とりどりのコスモスが風にゆれています。

城ヶ崎海岸

その昔、大室山の噴火で溶岩が海岸に流出、大小無数の岬をつくり、波の浸蝕で数十メートルの絶壁ができました。遠く伊豆七島を一望にして、岬越しに美しい天城連山がそびえます。岬の形は千変万化・奇妙な名前がついています。海岸線に沿って市の天然記念物・ヒメユズリハをはじめ、ヤマモモの日本一の大群落などが密生して、男性的な岬を彩っています。(1995年富士箱根国立公園指定) 岬に沿って約3キロメートルのピクニカルコースと約6キロメートルの自然研究路があります。



▲城ヶ崎海岸(門脇吊り橋)

伊東市は天城山系を背に、相模湾に向かってひらけた明るい温泉リゾート地です。素晴らしい観光名所や楽しいスポットが多数あります。皆さんもぜひ一度、伊東の魅力を味わってみてはいかがでしょうか？



▲伊東市街全景

支部だより②

富士森林組合の現状と展望

富士森林組合 森林計画課

富士森林組合からは、急速に変化する林業・林産業に対応する山側の取組みや地域貢献を紹介いただきました。

はじめに

長らく、木材価格の低迷による林業・木材産業の不振は、大きな問題となっておりますが、ここ10年、私たち富士森林組合を取り巻く林業及び木材産業は、目まぐるしく変化し、その変化に合わせて柔軟かつ迅速に対応してきております。

一方で、先を見据えた様々な取組みも積極的に行っております。

成長への助走期

平成16年に「集約化施業」(後の「提案型集約化施業」)のパイオニアである日吉町森林組合で学び、富士山麓地域で集約化施業「富士森林再生プロジェクト」に取り組み始めました。その成果を平成18年から始まった「森づくり県民税」を財源とする「森の力再生事業」の取組に活かしたことや、平成22年に欧州フォレストから森づくり・道づくりの提案を受け「森林・林業再生プラン実践事業」に取り組んだことが、その後の生産量増加・安定生産への足掛かりとなりました。

激変する需要への対応

時を同じくして、木材産業では、平成25年にMDF用材、建築用材、平成26年には合板用材、燃料用チップ用材と新たな供給先が生まれ、安定価格による直送体制が整いました。

それは偶然か必然か、当組合の素材生産量の増加に伴う安定生産体制と新たな木材需要多様化に伴う供給体制(直送体制)が整ったことで、提案型集約化施業による丸太の生産販売方式を受託生産方式(以下受託方式)から新たに買取生産方式(以下買取方式)に平成26年度から取組み始めました。

買取と受託方式の比較・利点

買取方式と従来の受託方式との相違点は以下のとおりです。

- ・間伐予定木を予め森林組合が買い取るため、山主さんへの精算が速く喜ばれる。
- ・現場では、ユーザーの望む寸法で効率よく丸太生産ができる。
- ・山土場での丸太揃積作業を所有者別の径級毎管理から直送を前提に

ユーザー別の径級管理へ変え、作業工程や流通経費の削減により全体的なコスト削減が可能

結果的に、森林組合の生産性・収益力アップと買取価格アップの両立が可能な新たな取引方法として期待できます。

今後の展望

現在、平成25年の富士山文化遺産登録に伴い、富士宮市、静岡県、当組合が一体となって主要道路沿いの森林の景観整備に取り組んでおります。

また、専門的かつ高度な知識・技術を備えた人材の育成を行うとともに、知識・技術の継承できる体制を整えております。

さらに、小学生を対象とした「富士山森づくり親子体験教室」を実施し、富士山麓の美林を引き継ぐために、次世代への森づくりと文化の継承活動にも積極的に取り組んでおります。

富士森林組合は、おかげさまで創立60周年を迎えることができました。これからも私たちは、市場のニーズに耳を傾け、スピード感を持った事業展開を進めていきます。

積極的に森林に関わる方々とコミュニケーションを図っていき持続的に森づくりができる体制を整えていきます。

富士山麓の美林を守る責務があると認識し、富士の森を豊かにし、共育、共用、共生していく森づくりを提案し、実行していきます。



▲地域貢献活動(富士山森づくり親子体験教室12.5開催)



▲富士山森づくり親子体験教室(機械造材に見入る子供たち)

支部だより③

市制10周年

～絆と元気が創る 幸せあふれみんなが集う NEXTまきのはら～

牧之原市役所 産業経済部 お茶特産課

牧之原市からは、今年の全国茶品評会での「深蒸し煎茶の部 産地賞受賞」や地域との協働で進めるイノシシ被害対策・白砂青松の保全について紹介を頂きました。

牧之原市の概要

牧之原市は、平成17年10月11日に、榛原郡相良町と榛原町が合併して誕生しました。静岡県の中中部地区の南に位置し、牧之原台地に広がる日本一の大茶園と美しい駿河湾に抱かれた自然豊かな市です。東名高速道路・相良牧之原インターチェンジと御前崎港、さらには富士山静岡空港が高規格道路で連結された「陸・海・空」の交通結節地となり、産業面を中心に活力あるまちづくりを進めています。

牧之原市では、平成23年10月1日に自治基本条例を施行し、「一人ひとりの思いが活かされるまち」を理念に掲げ、市民協働によるまちづくりに取り組んでいます。

全国茶品評会において、静岡牧之原茶が深蒸し煎茶の部 産地賞受賞

本市は、日本有数の茶産地で、茶処静岡県において一番の荒茶生産量となっています。静岡牧之原茶「望」を中心に「お茶のまち牧之原市」のPRと消費拡大に取り組んでいます。今年8月に行われた第69回全国茶品評会では、牧之原市として初めて深蒸し煎茶の部で産地賞を受賞しました。これは、市制10周年に花を添えるうれしい出来事でした。産地のPRに役立て、受賞を契機とし、茶業をいっそう盛り上げていきたいと思えます。

鳥獣被害対策

本市では、近年鳥獣被害が多くなり、特にイノシシの出没や農作物へ

の被害が多くなってきています。イノシシの捕獲頭数も年々増え続け、今年度は半年で昨年度の頭数上回るイノシシが捕獲されました。

現在、捕獲の担い手である猟友会メンバーの高齢化が進み、近い将来、存続の危機が起きる可能性もあります。今後は猟友会だけでなく、地域が一丸となって対策を進めることが必要になります。

そこで、市では今年8月牧之原市鳥獣被害防止対策協議会を立ち上げました。地元住民・猟友会・農協・行政が連携を図りながら、地域の実情にあった対策を進めていきたいと思えます。

美しい海岸と松林の保全のために

本市の白砂青松の美しい海岸線には、静波や相良サンビーチの海水浴場があり、多くの人で賑わう重要な観光資源となっています。

海岸松林は、ボランティア団体や地元自治会により、定期的に清掃活動が行われています。また、それに加えて企業、住民が一体となった清掃活動も行われています。

今後も、白砂青松の美しい海岸線と松林を維持していくため、松くい虫被害対策を実施していくとともに、地域住民やボランティア団体と連携し、海岸の松林の植樹や適切な管理に努めます。



▲静波海岸



▲牧之原の大茶園



▲静波海岸と松林

県庁だより①

「ニホンジカによる森林被害対策の推進」

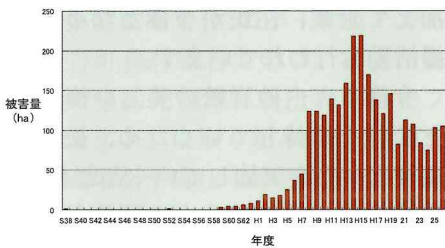
交通基盤部森林局 森林整備課

森林整備課からは、林業界から長年要望が強かった「造林事業でのシカ等の捕獲、処分など」について新たな補助事業の紹介がありました。

はじめに

本県では、ニホンジカによる森林被害(以下シカ森林被害)対策として、植栽木を守る防護柵の設置や忌避剤散布といった予防対策と有害鳥獣捕獲や個体数調整といった捕獲対策を実施しています。

しかし、シカの繁殖力は非常に高く、個体数の増加により、植栽木の食害や樹皮剥ぎ被害は増加傾向にあります。また、下層植生の食害により、森林の公益的機能が低下する恐れもあることから、更なる対策が必要です。



静岡県におけるシカによる森林被害面積の推移

シカ森林被害が林業に与える影響

本県の人工林は、林齢41年生以上が人工林面積の約85%を占め、木材資源として利用可能な時期を迎えており、今後、木材の安定供給や林齢の平準化の観点から、皆伐施業を推進していく必要があります。

しかし、皆伐後の再生林において、スギやヒノキの苗木が食害を受けることを恐れて、皆伐の実施をためらう声も多く聞かれます。皆伐を推進するためにも、早急な対策が必要です。

今後のシカ森林被害対策

シカ森林被害対策について、これまでは、鳥獣保護管理の観点から、県自然保護課が管理捕獲等を実施し

てきましたが、森林・林業の観点からも、防護柵や忌避剤の散布といった予防対策のみならず、捕獲対策を実施することが必要です。

そこで、林野庁は平成26年度から造林事業の中で、シカの捕獲も事業の対象としたところですが、これによりシカ森林被害対策は森林管理の一環として、公共事業に位置づけられ、これまで実施してきた防護柵の設置等の予防対策に加え、捕獲対策が実施可能となりました。

事業対象となる捕獲方法に制限がありますが、造林事業で実施可能となったことの大きな意味は「シカの捕獲経費が公共土木工事と同じように恒久的な予算措置が認められた」ことにあります。平成28年度には県内で初めて2市町で実施予定の

環境林整備事業(森林保全再生整備)の概要

事業目的	森林のもつ公益的機能の維持増進
事業内容	・防護柵、わな(困いわな、首くりわな等)の設置 ・巡視、誘引捕獲、処分等の実施 ・捕獲施設、誘引施設、監視施設の整備
事業主体	市町、森林組合等
対象	野生鳥獣による森林被害を受けた森林(新植地以外も可)
補助率	68%
補助要件	対象森林の面積0.1ha以上、森林所有者等との協定締結等
その他留意事項	詳細は、農林事務所・市町担当課にお問い合わせください。



▲誘引式首くりわな
森林・林業研究センターが開発した



▲誘引式首くりわなに掛かったシカ

で成果が期待されます。

本県では、森林・林業研究センターにおいて、設置が容易で従来よりも捕獲効率の高いくりわなの開発やシカの行動調査の研究を実施しています。従来、メスの群れは、餌を求め広範囲に移動すると考えられていましたが、行動調査の結果、実際には、谷等を境界とする数十ha程度の比較的狭い地域に留まり餌を食べていることや他のメスの群れとは行動圏の重複が少ないことなどが、新たな知見として得られました。

今後は、これらの知見や技術を積極的に導入し、効率的な捕獲対策を進めていく予定です。特に誘引式首くりわな(写真)は、作業道沿いなどの視認が容易な立木に設置して餌付いたシカを捕獲できるため、森林作業の安全性を確保しながら捕獲作業(わなの設置、給餌・見回り、捕獲個体の処理)も同時に行える優れた方法です。

また、捕獲の中心的担い手である猟友会に加え、今後は地域の森林に精通している森林組合や林業事業体が積極的に捕獲に関わって頂くことで、効率的かつ効果的にシカ森林被害を減らす対策を市町と連携し推進していきます。

県庁だより②

自立した林業に向けてビジネス林業を促進

静岡県林業振興課林業振興班 班長 岩崎 努

林業振興課からは大きな成果が上がっている補助事業「ビジ林」について紹介いただきました。

1 ビジ林って？

県は、平成23年度に、林業事業者による①製材・加工工場のニーズに応じた計画生産と直送販売（マーケットイン）と、②森林所有者への収益還元を増やす低コスト生産の実践の取組をビジネス林業と定義しました。そして、ビジネス林業に取組もうとする林業事業者に対して、アドバイザーを派遣して経営改革と現場の生産システムの改善を支援してきました。支援を始めた当初は「ビジネス林業、関係ないよ」との反応が多かったのですが、最近では「ビジ林」と呼ばれ、林業事業者の間でも定着しつつあります。

本年度までに37事業者の取組を支援しましたが、平成23年度から25年度の3年間に支援した林業事業者の木材生産量は、支援前後を比べると2.5倍に増えるなど、それぞれの林業事業者で大きな成果をあげています。

2 話し合うことから

まず、「組織内の情報共有、意志決定の仕組みを作る」取組の例です。

事業者の規模が大きくなると、誰が、どのような情報を持っているかが見え難くなります。アドバイザーとともに、職員全員で「風通しを良くすると皆の仕事がやりやすくなる」などの意見を出し合いました。職員全員で「今より良くしていきたい」、そのために「やる」ことを決め、一つずつ改革の取組を始めています。

第三者のアドバイザーが入ることにより、話し合いがスムーズに進み、自ら現状や課題を共通認識して、そ

れをどう解決して行くのかが、明確になります。働く人の意識が変わることで、停滞していたことが前向きに動き始めます。



▲個別支援（生産システム分析）

3 ちょっとした改善

次に、「複数の林業機械を同時に導入して、生産性を向上する」取組の例です。

プロセッサが作業道を塞ぎ、フォワーダの走行に支障があった現場では、プロセッサとフォワーダが平行作業できるよう、支線開設のアドバイスがありました。また、伐倒方向がバラバラだった現場では、後工程において木寄せしやすくように、元玉側を作業道に揃えるようアドバイスがありました。

こうしたことはわかっている、できていると思われるかも知れません



▲林業振興課一同今年もよろしくお祈りします

が、「なくて七癖」と言うように、いろんな現場を見てきたアドバイザーの目から見ると、ちょっとした改善点がいくつも見つかります。ちょっとした改善を積み重ねることにより、労働安全性と生産性は着実に向上します。



▲個別支援（安全な伐倒作業）

4 ノウハウを必携に

この支援は、県森林組合連合会に委託して実施していますが、現場改善などの報告書には、他の林業事業者の参考となるノウハウが豊富に記載されています。これを書類だけに留めておくのはもったいないので、県森林整備加速化・林業再生事業推進協議会にお願いして、「しずおか林業作業士現場必携」としてハンドブックにまとめていただく予定です。

5 発見したことはできる

出典は不明ですが、「聞いたことは忘れる、見たことは覚える、やったことはわかる、発見したことはできる」と言われています。現場必携を手元において活用していただきたいですが、「見たこと」レベル止まりです。ビジネス林業促進事業は、意欲ある林業事業者が実際に「やってみる」、そして自ら「発見する」をお手伝いする事業です。そうした支援をモノにできるかは、林業事業者の経営者の経営改革への意欲がポイントであることは言うまでもありません。

平成28年度も引き続き実施を予定していますので、意欲ある林業事業者のチャレンジを待っています。

本部情報

きこりが街にやってきた! 静岡県林業者大会の挑戦

はじまり

平成27年9月27・28日、静岡市の街中にある鷹匠公園ともくせい会館にて、静岡県林業者大会が行われました。今回の担当は若手が活躍する静岡市林研。山と街をつなげ、きこりを子供たちの憧れの存在にしたい、との思いから、新しい林業者大会の形を摸索し、一般の方も参加しやすいようにと、街中での開催を決定しました。名付けて「きこりが街にやってきた!～都市と森林をつなぐ～」。

開会式

中山会長の挨拶に始まり、長谷川林業振興課長、築地静岡市経済局長、榛村県森連前会長が来賓挨拶と小林市林研会長の挨拶。会場には飲食や物販を行うきこりマルシェや、子供用きこり体験遊具が用意され、とても良い雰囲気。いよいよ「きこりが街にやってきた!」のスタートです。

キコリンピック

大会のメインは「キコリンピック」。各地区林研から14名の腕利きが集まりました。子供たちに林業のかっこよさをPRすべく、競技には日本伐木チャンピオンシップの種目を取り入れました。大丸太切り、枝払いなど6種目を順に行うタイムレースで、

スピードと作業の安全性を競います。予選の時間になると、競技会場の周りには、参加者や一般の親子連れがずらり。子供たちはふだん見ることのないチェーンソーワークに目が釘付けでした。選手たちも緊張の面持ち。1種目でもつまずくと、タイムに大きく差が出てしまいます。競技は白熱し、日々積み重ねてきた技術を最大限に発揮していました。

きこり戦隊リンケンジャー、参上!

お昼になると、最大の見せ場、「きこり戦隊リンケンジャー」ショーが始まりました。この大会のために誕生した新企画です。5人のリンケンジャーが街の平和を守るため、悪の帝王ワルダーと戦います。舞台となる遊具のまわりには子供たちがたくさん集まりました。

「エーンエーンお水が飲みたいよー、エーンエーン。」ワルダーの仕業で蛇口からお水が出ず、喉が渴いたせいじくんはお水が飲めません。せいじくん大ピンチ。司会者と子供たちの掛け声でリンケンジャーが登場しました。「リンケンジャーがんばれ!」口々に子供たちが声援を送り、バトルもヒートアップ。クライマックスではリンケンジャーバッチをかざした子供たちと共に、見事ワルダーを倒しました。公演後はリン



ケンジャーが子供たちから声をかけられたり、競技中のリンケンジャーへの熱いエールが飛び交い、その場の一体感を生んでいました。

決勝

午後の決勝に進んだのは、大井川林研のバト氏と静岡市林研の吉川氏。彼らのチェーンソーワークは抜群で、多くの林業者の刺激になったのではないのでしょうか。結果は1位バト氏、2位吉川氏。表彰式では温かい拍手が送られました。



安村基氏による講演

2日目はもくせい会館にて静岡大学教授の安村基氏による講演「森林と建築を結ぶもの」が行われました。欧州における都市の木質化の事例紹介や、需要家への林業家からの売込みの必要性などをお話していただきました。

終わりに

1日目に一般の方も含め約300人の来場があるなど、盛況のうちに大会は閉幕しました。

林業者大会は各地区林研の交流を深める大切な場でもあります。林業の明るい未来を築いていくためにも、新年はこうした交流から新しい動きが生まれていけばと感じています。

事務局だより

「変」と「変化」

あけましておめでとうございます。

さて日本気象協会によると「気象予報士100人に聞いた平成27年の天気を表す漢字」に“変”が選ばれたそうです。全国的に「変な」「変わった」天気が多かったからということでした。

一方、森林関係は「変」ではなく「変

化」の年であったと思えます。変化は全国各地での、木造・木質公共建築の普及、東京五輪での森林認証材利用の動き、“CLTで地方創造へ”に向け首長連合設立、大型国産材製材・合板工場や木質バイオマス発電施設が稼働開始、円安と国産材の輸出増加、さらにTPP大筋合意、COP21合意などがあり、いずれも国産材需要の増加に向かう変化です。この潮流の中に、国産材を使うことが山間地

の活性化（雇用・所得・新たな人材流入など）に大きな効果があることの理解が進み始めたことが隠れているように見え、今年度はさらに「変化」から「大変化」になることを願っています。

本年もよろしくお祈いします。

公益社団法人
「森と人」 静岡県山林協会
編集・発行 静岡市葵区追手町9-6 県庁西館9F
TEL:054-255-4488/FAX:054-255-4489